

在宅医療・介護連携のための多職種研修会アンケート結果

テーマ 「入退院支援から在宅療養」
開催日 2025年10月31日(金)
会場 プラットおおむら4階 大会議室 (対面のみ)
参加者 65名 (アンケート回収60名 回収率：92%)
平均年齢 45.6 歳

【内容】

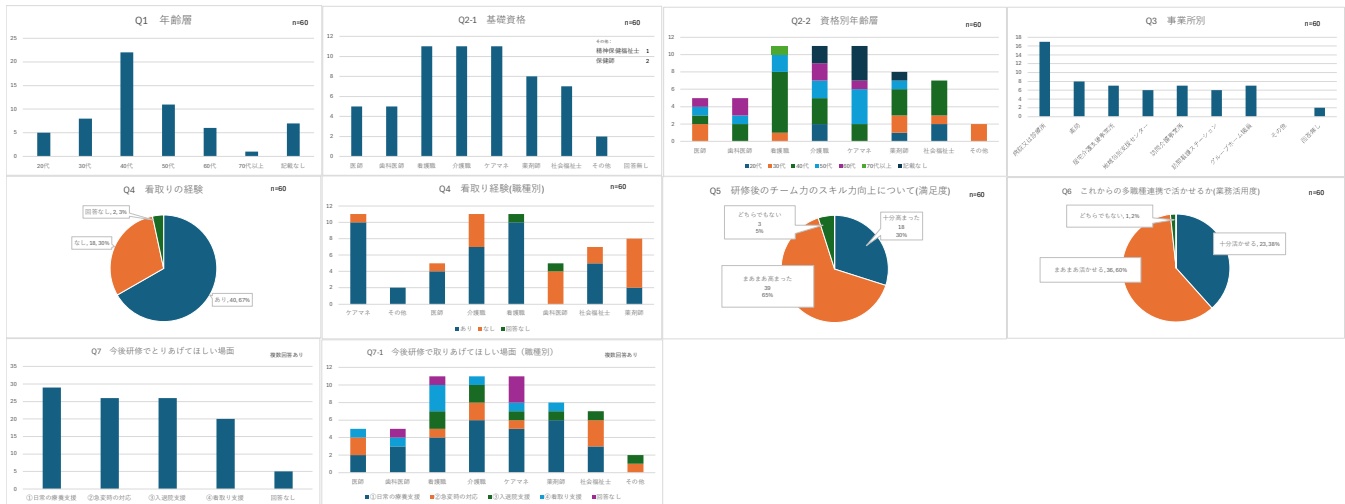
今回で2回目となる本研修は、大村市ホスピタルタウン構想「ときどき入院ほぼ在宅」の理念に基づき「入退院支援から在宅療養に至るまでの連携にかかる支援」をテーマに、8職種の皆さまが一堂に会し、ワールドカフェ方式によるグループワークを通じて活発な意見交換を実施。

【集計結果】

Q5チーム力向上の実感については、約95%の人が「チーム力が高まった」と回答。Q6多職種連携への活用度は、ほとんどが「今後の業務に活かせる」と、実践への意欲が高い。Q7今後取り上げてほしいテーマは日常支援・急変対応・入退院支援が特に関心が高く、最も関心の高い日常支援は、介護職・薬剤師・ケアマネ・歯科医師と在宅支援に関わる職種が多く、日常的な連携の必要性を強く感じていると推察される。
在宅支援に関わる職種が多く、日常的な連携の必要性を強く感じていると推察される。看取り支援は関与度には差があるため、職種ごとの役割や連携のあり方を明確にする研修が有効。今後の対応として、職種ごとの関心の違いを踏まえたテーマ設定も検討。Q8自由記載では、多くの参加者が「他職種の意見が聞けて良かった」「連携が深まった」と研修に肯定的に評価。実際に直結する課題（退院後の受け入れ、認知症対応、職能理解など）への気づきが多く見られた。ワールドカフェ方式やグループワークが「楽しかった」「話しやすかった」と研修形式への評価も良かった。時間配分、進行の工夫、アイスブレイクの有無など、運営面での改善提案もあった。今後についても「また参加したい」「協力していきたい」「必須の研修」といった継続への意欲が多数あり。

【成果・課題】

「医療現場の迅速な対応」と「地域支援の人間関係や生活背景への配慮」とではスピード感や温度差があり、それぞれ互いの立場を尊重することが連携において重要だと感じた。
集計結果からも、今後は、テーマ別研修や職種間ごとの役割や連携のあり方を明確にする研修など、職種の理解やその職種と一緒に企画・提案し、連携の幅を広げることも検討していきたい。



Q7 研修会で取り上げてほしいテーマと理由

1. 日常生活の支援

服薬確認が困難：未服用が多く、月末に数か食べばよいという対応では不十分。ヘルパーが誤った薬セットを発見しても対応が進まない。
情報の食い違い：在宅生活で何をしてほしいかが不明確なケースが多い。
ケアマネとの連携：どこまで意見してよいかわ悩む場面がある。
個人のスキル向上：知識・スキルの底上げが在宅支援の質向上につながる。

2. 急変時の対応 (ACP・ICT活用・情報共有)

ACPの重要性：緊急時に本人の意思を把握しておくことが不可欠。
ICT活用の要望：緊急対応時の情報共有手段としてICTの導入を検討してほしい。
情報共有の課題：多職種間での連携・連絡に課題意識がある。
研修での実績：急変対応は研修でも取り上げられており、実践的な情報共有が求められている。

3. 入退院支援 (病院との連携・退院後フォロー)

退院時情報の不足：初めての在宅対応時に情報が少なく、対応が難しい。
退院時カンファレンス：家族の情報を得られる場として重要。
病院側の困りごと：病院からの立場で何に困っているかを知りたいという声。
退院後の連携：退院後のフォロー体制が不十分で、在宅支援に支障が出る。

4. 看取り支援 (終末期ケア・家族支援・口腔ケア)

在宅看取り希望者の増加：コロナ後、在宅で最期を迎えたいという希望が増加。
心理的支援の必要性：本人・家族ともに受け入れが難しいケースが多く、外来ではなく在宅での支援が必要。
口腔ケア体制の整備：歯科医師・衛生士への依頼がしやすい体制と情報提供が求められている。
「きれいな体で最期まで」：尊厳ある看取りを支えるケアの質向上が必要。

その他の重要な視点

多職種連携の強化：認定看護師・特定看護師の訪問看護導入による質の向上。
地域での実践共有：各職種の強みを理解し合い、実践につなげる場づくり（「バトンを渡す、手を握む」）。
新任者の視点：大村市で勤務開始したばかりの方から、地域の取り組みを知りたいという声。
全テーマの網羅希望：すべてのテーマを取り上げてほしいという意見もあり、包括的な研修企画が望まれる。

Q8 研修感想

研修感想

多職種の意見交換ができて良かった
「様々な職種の視点・意見が聞けて良かった」
「職種の垣根を越えて意見が聞けた」
「日頃会えない方と意見交換できありがたかった」
「とても有意義な研修だった」「とーっても楽しかった」
ワールドカフェ方式の評価
「色んな方と話せて良かった」
「15分ずつのグループワークが楽しかった」
「アイスブレイクを削っても話が盛り上がりそう」
今後も継続希望
「今後も参加したい」「この研修は必須です。がんばりましょう！」

多職種連携・役割理解と理解の深化

他職種の役割理解が進んだ
「ヘルパーのスキルが向上していることが理解できた」
「薬剤師や歯科医への依頼がしやすくなった」
「薬剤師の職能が伝わって良かった」
連携の必要性を再認識
「高齢者や認知症の増加により多職種連携が必要」
「それぞれの職種の考え方は違っても、目指す支援は同じ」
顔の見える関係づくり
「顔の見える関係が築けてよかった」
「医師がざっくばらんに話してくれて親しみが持てた」

学び・気づき

新たな視点の獲得
「新しい考えや言葉を知ることができた」
「退院後の受け入れ先選択の困難さを学んだ」
「MCSについて詳しく知りたい」
共感・共有の場としての価値
「SWとして同じジレンマを共有できて気持ちが晴れた」
「愚痴も出たが、率直な意見が聞けてよかった」

改善点・要望

運営面での配慮
「グループ自己紹介時に横から話され、意見が聞けなかった」
「写真撮影はなくてもよいのでは」
「ゲームで手にのりがついたのが気になった」
時間配分の見直し
「もっとディスカッションの時間が欲しかった」
「他の方の意見をもっと聞きたかった」